＜英語活動＞

コミュニケーション能力を高めるための英語活動の工夫
―児童が楽しめる体験的な英語活動を通して―

宜野湾市立大山小学校　教諭　バレット　文野

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 …… 37
Ⅱ　研究目標 …… 37
Ⅲ　研究仮説 …… 38
Ⅳ　研究の全体構想図 …… 38
Ⅴ　研究内容 …… 39
　1．主題についての基本的な考え …… 39
　2．英語活動におけるコミュニケーション能力について …… 40
　3．コミュニケーション能力を高めるために …… 41
　4．活動例について …… 43
　5．指導の工夫 …… 44
Ⅵ　検証授業 …… 48
　1．題材 …… 48
　2．題材設定の理由 …… 48
　3．題材について …… 48
　4．児童の実態 …… 48
　5．単元の目標 …… 49
　6．単元計画 …… 49
　7．本時の展開 …… 50
　8．授業の感想 …… 51
　9．授業仮説の検証 …… 51
Ⅶ　交流会より …… 53
　1．アメリカンスクールとの交流 …… 53
　2．国際交流センター（ＪＩＣＡ）との交流 …… 53
Ⅷ　研究の結果と考察 …… 54
　1．研究仮説の検証 …… 54
Ⅸ　研究の成果と今後の課題 …… 55
　1．研究の成果 …… 55
　2．研究の課題 …… 55
　3．終わりに …… 56
　　主な引用文献・参考文献 …… 56

＜英語活動＞

コミュニケーション能力を高めるための英語活動の工夫
―児童が楽しめる体験的な英語活動を通して―

宜野湾市立大山小学校　教諭　バレット　文野

Ⅰ主題設定の理由

第 15 期中央教育審議会の答申では、国際化に対応する教育を進める上での留意点の１つに、「外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図る」ことが挙げられており、特に国際的共通語となっている「英語」でのコミュニケーション能力を身につけることが、国際社会で生きていく子ども達に大いに求められている。

小学校における外国語の取り扱いについては、新学習指導要領の中で、「総合的な学習の時間」に国際理解教育の一環として、各学校の実態に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりすることができると述べられ、本県では実際にほとんどの小学校で英語活動が実地されている。

また、平成１４年に新学力向上対策主要施策「夢・にいぬふぁ星プラン」が施行され、重点目標とする「生きる力」を育成していくために必要な、身につけさせたい力（基礎学力）が３点挙げられた。その１つに、「コミュニケーション能力の育成」があり、具体的な取り組み事項の１つとして国際理解教育及び英語教育の充実が挙げられている。

さらに、本市では平成１５年に「小学校英語教育特区」の認定がなされ、平成１８年度までには市内８校全ての小学校で英語の授業が実地される。このように小学校での英語活動の在り方はコミュニケーション能力を身につけさせるために、どのような学習活動を工夫し展開していくかが課題となる。

児童の様子を見てみると、他の教科以上に実にいきいきとした態度で学習に臨んでいる。実際に「英語の学習は楽しいですか。」という問いに、ほとんどの児童が「楽しい。」と答え英語活動に抵抗がなく、関心度も高いことがわかる。これは、歌やゲームなど活動が中心となり、児童にとっては「遊んでいるうちに何となく英語が少しずつ分かるようになってきた。」という感覚で学習しているからであろう。しかし現行のままでは、ただ単に英語を見聞きし、声に出してみるだけに留まっている。それを人と人が心を通わせ話し、聞くことができればコミュニケーションが成立する。そこで、教師がこの意欲をきちんと踏まえ、児童の実態に即して身近な題材を取り上げ、教師と児童、ALT と児童、児童と児童とのコミュニケーションを意識した、体験的な英語活動が展開できれば、児童のコミュニケーション能力を高めることができるであろうと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ　研究の目標

児童が英語に慣れ親しめる学習材を作成し、体験的な活動を取り入れた授業をすることで、進んでコミュニケーションを楽しむことができる児童を育成する。

Ⅲ　研究の仮説

1　基本仮説

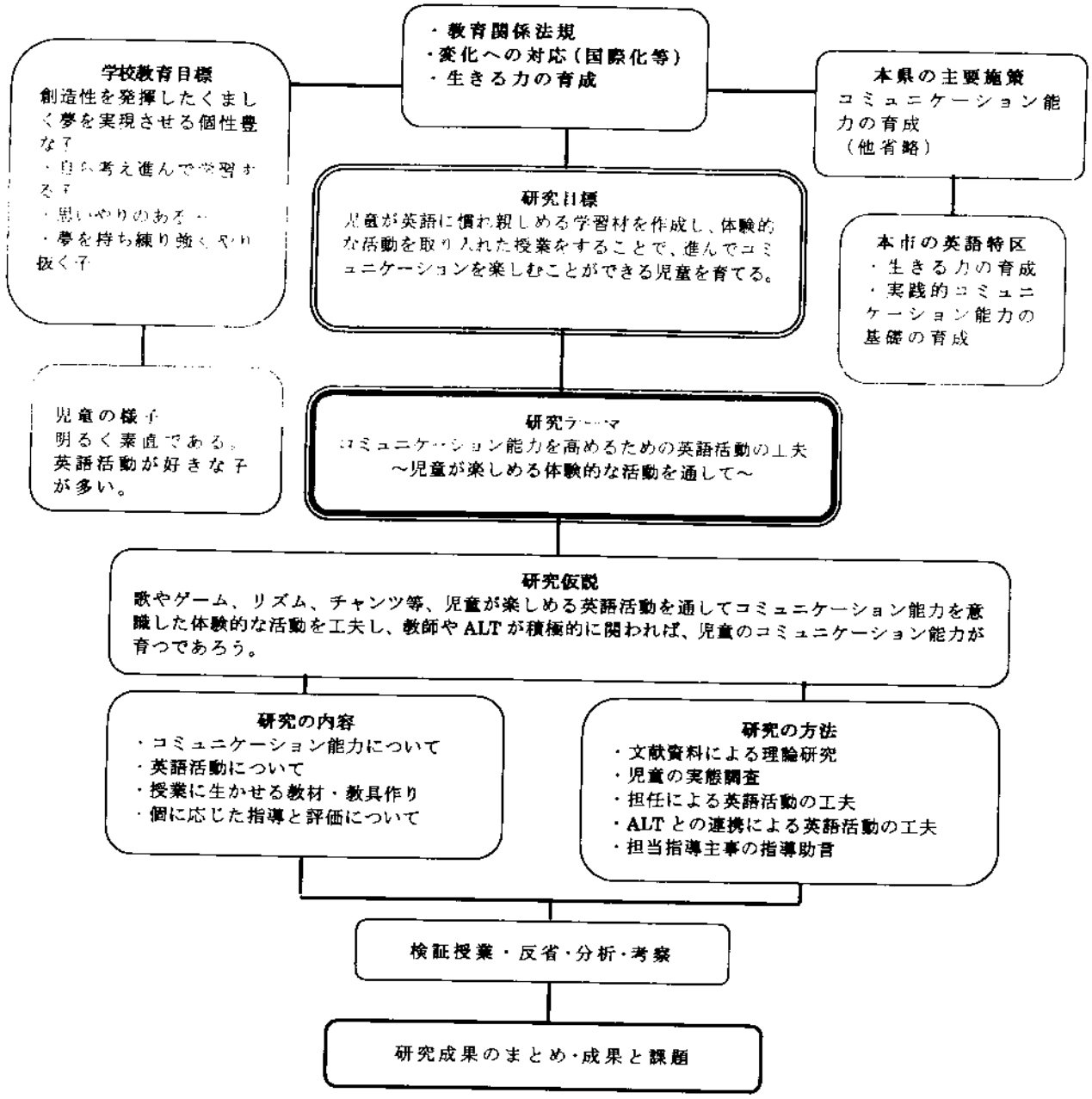
歌やゲーム、リズム・チャンツ等、児童が楽しめる英語活動を通してコミュニケーションを意識した体験的な活動を工夫し、教師やALTが積極的に関われば、児童のコミュニケーション能力を高めることができるであろう。

2　具体仮説

（1）英語活動においては身近な題材を取り上げ、歌やゲーム、リズム・チャンツ、絵本の読み聞かせ、ごっこ遊び、季節や行事に合わせての簡単な工作や外国の様子についての紹介など活動を工夫すれば、児童の意欲が高まり楽しい活動ができるであろう。

（2）コミュニケーションをする上でのマナー面について、必要に応じて全体指導を行い、担任とALTが連携して積極的に関わり、児童の活動の様子に配慮しながら、担任と児童、ALTと児童、児童と児童どうしのコミュニケーション活動を工夫すれば、コミュニケーション能力を高めることができるであろう。

Ⅳ　研究の構想図



Ⅴ．研究の内容は

１．主題についての基本的な考え

コミュニケーションとは、「人間が社会生活を営む中で行われる知覚・感情・思考による伝達のこと。言語・文学・その他視覚・聴覚に訴えるものを媒介とし行われる。」ことである。しかし、伝達する物や空間、方法は多種多様であり、コミュニケーションを分類する方法も幾通りもある。そこで、この研究においては小学校の英語活動で求められるコミュニケーション能力について考察していく。

（１）宜野湾市の英語教育について

本市は、「国際学園都市ぎのわん」の実現に向けて「英語教育特区」事業として、小学校に「英語科」を新設した。現行の教育課程を弾力的に運用、小中一貫した英語教育、効果的、断続的な指導体制のもと、「児童生徒の生きる力の育成及び国際化の時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むこと」を目標に位置づけている。この小学校の「英語科」で求められることを簡潔に述べると「生きる力と外国人との実践的コミュニケーションの基礎を育む」ことである。

また小学校英語活動のねらいは次の通りである。

① 英語活動を通して子どもの興味・関心・意欲を育成する。
② コミュニケーション能力を育てる。
③ 交流活動を通して国際理解を深める。

ここで言うコミュニケーション能力とは、単に英会話力を求めているのではなく、目標にある、「実践的コミュニケーション能力の基礎」や「生きる力」を育むために必要とされる能力ととらえる。

（２）「生きる力」と「実践的コミュニケーション能力」について

中央教育審議会の第一次答申で述べられている「生きる力」とは、「自己解決能力」「他者理解」「豊かな人間性」「たくましく生きる」ことである。学校教育で考えていくと、英語活動は総合的な学習の時間の中に位置づけられており、そのねらいとして「自ら学び自ら考え、問題を解決する力などの「生きる力」の育成や学び方やものの考え方の習得など―」と述べられている。

また、「実践的コミュニケーション能力」とは、中学校学習指導要領教科目標に位置づけられ、以下のように示されている。

「実践的コミュニケーション能力」とは、単に外国語の文法規則や語彙などについての知識を持っているというだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力のことである。こうした能力をめざし、その基礎を養うこと―

「物質的には豊かになったが、人間関係が希薄化してきた。」近年、よく聞かれる言葉であるが、人間関係作りに欠かせないのもコミュニケーションであり、互いに聴き合ったり話し合ったりする、相互理解を図ることでよい関係が生まれる。英語活動の中でコミュニケーション能力を育成するということは、自ら考え、問題を解決する力などの「生きる力」を育むための能力にもなるということを私たち教師は意識していかなければならない。

2．英語活動におけるコミュニケーション能力について

コミュニケーションと一口に言っても多種多様な考え方があることは前項でも述べたが、ここでは英語活動に結びつく外国語教育におけるコミュニケーション、国際理解教育におけるコミュニケーションについてとりあげてみた。

（1）外国語教育におけるコミュニケーション能力

外国語教育におけるコミュニケーション能力とは何かと探っていくと、多くの英語教育の分野で受け入れられているswain＆canaleによるコミュニケーション能力の定義が参考になる、これは以下の4つの能力に分類される。

① 文法的能力　【統語的能力、語彙的能力、個々の語の発音に関する能力などに直接関係する能力のこと。】

② 談話的能力　【前後関係、場面、文脈などの状況を正確に把握し、伝達できる能力のこと。】

③ 社会言語的能力【言語に関連した社会的規則や約束ごとを的確に把握し、的確に自分の言いたいことを相手に伝え、相手ことを理解できる能力のこと。】

④ 方略的能力　【コミュニケーションをより円滑に進める際に必要とされる能力のこと。】

上記から外国語教育におけるコミュニケーション能力とは、言葉（外国語）を聞いたり、話したりする能力に留まらず意味のある話し合いを考慮し、さらに社会文化的な規則を踏まえての意思伝達、それを円滑に進める技これらが有効に組み合わされている能力のことである。

（2）国際理解教育におけるコミュニケーション

国際理解教育とは中央教育審議会第一次答申では、国際理解教育を進めるための留意点として「異文化理解とその人々と共に生きる資質と能力」「自己の確立」「外国語の基礎や表現力等のコミュニケーション能力」の3つを挙げている。

また本県の国際理解教育の推進として、

- わが国の歴史や伝統文化などに対する理解を深める。
- 広い視野を持って異文化を理解する。
- 異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていく資質や能力を育成する。

ことが述べられている。

金森氏は、（小学校の英語教育p12）『児童期における「国際理解教育の一環としての英語会話」の「国際理解」では、外国語、外国文化のスキルや知識の獲得だけではなく、コミュニケーション能力を育てるための活動を通して、「自尊心」や「他者尊重」の心や態度を育むことであり、英語活動とは、英語を媒体として人と触れ合う体験を持つこと、自己表現の機会を持つこと』と述べている。

（３）英語活動で望まれるコミュニケーション能力とは

以上を参考にしながら、英語活動におけるコミュニケーション能力を育成するにはどのような能力が必要であるかを考える上で、広島県教育センター研修企画部の「小学校における国際理解教育のすすめかたに関する研究」やいくつかの研究校の取り組みも参考にし整理して３つにまとめてみた。

・聞く力　　（相手の話していることに興味を持ち聞く）
・伝える力　　（英語活動で学習した言語材料を生かしたりしながら、自分の考えや気持ちを相手に表現する）
・関わり合う力（英語活動で学習した言語材料を生かしたりしながら、相手の立場を理解し、思いやりのある態度で交流する）

英語活動の中で英語に興味を持ち、相手の話していることに思いやりの気持ちを持って聞こうとする態度や英語で話す活動の中で自己表現をしようとする態度、ともに学んでいる友だちや先生など人と楽しく関わり合う態度を身に付けることがコミュニケーション能力を高めることになるだろう。

小学校の段階では身近な友だちや先生、地域の人から人間関係作りを学んでいく、その経験が生かされ外国人と触れ合う場合においても臆することなく交流できるようになるだろう。そのために英語活動においては、体験的な活動をより多く取り入れていくことが望ましい。

３．コミュニケーション能力を高めるために

コミュニケーション能力について定義づけができたので、実際にどのようにコミュニケーションを高めさせていくか考えていきたい。

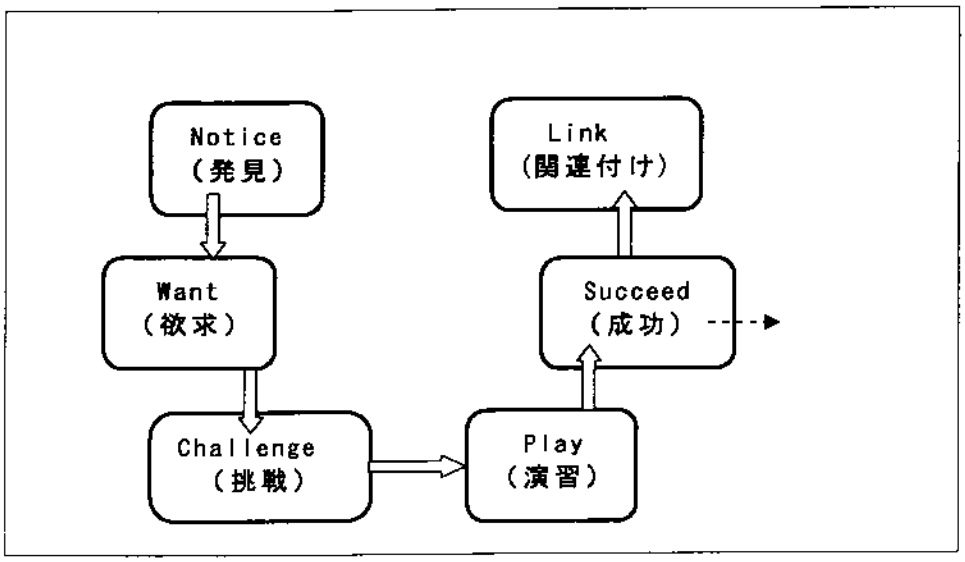
（１）現在（１２月）までの問題点（実践授業から見えてきたこと）

現在私が教えている３年生は、毎回楽しく授業に参加している。私の取り組み事態は授業計画をし、教材の準備を行いそれなりに子どもたちに受けのいい内容になっており、自己評価カードを見ても「楽しく活動できましたか。」という質問に対し多くの子が「できた。」と答えている。しかし、「ゲームは好きだが英語は難しい。」と言う声や教師中心になるセクション（**Review / Today's topic** ）では、子どもの反応が鈍いなどの問題点も見えてきた。コミュニケーション能力を高めるには、子供たち自身に「外国人と話をしてみたい。そのために英語を学びたい。」という動機を持たせ、主体的に取り組める内容も考えていかなければならない。そこで、デイビット・ポール著の『子ども中心ではじめる英語のレッスン』を参考にした。

（２）**EFL(=English as a Foreign Language)**と **ESL(=English as a Second Language)**

前者は外国語として学ぶ英語教育、後者は第二言語として学ぶ英語教育である。日本に置ける子どもたちは、前者 **EFL** で、いくら英語は重要な言語であるといっても英語を使わなければいけない環境にいるわけではなくあまり必要性が感じられない。そこで、デイビット氏は『授業の中では、新しい学習目標について学びたくなるような「ニーズを作り出す」べきである。』と述べ、そのためには、子ども中心の学習が大切でありそれを「探求のサイクル」として次のように示した。

（探求のサイクル）



子どもたちに、遊びながら新しい単語や表現パターンを発見させ、教師はそのような単語や表現パターンを「教え込む」のではなく、学習活動の中に組込み子どもに気づかせる。その時、楽しんでいるならば、そこで新しい単語や表現パターンがどういう意味であるか知りたがるだろう。そして周りの援助を得たりしながら挑戦し、演習していくことで単語や表現パターンを自分の物として獲得していくという流れである。これを参考に、学習を展開するときは、ねらいを教え込むのではなく活動の中に組み込ませ、例えば「楽しくゲームをするためにこの言葉を覚えたい。」というような、展開の工夫を考えていきたい。

（3）英語活動のあり方

小学校での英会話学習においては、歌、チャンツ、ゲームなどを利用し、英語に慣れ親しむ活動を持つことが望ましいとされている。また、本市の英語活動を行う上での留意点として、以下の3つがある。

① 子どもの日常生活に身近な英語を使う。
② 音声を中心とした活動を行う。
③ 英語学習で取り入れる学習内容と活動

児童が主体的に活動できる内容を考え、活動においては、体験的であること、あいさつや歌、ゲームを取り入れた自然に英語で話せるようにし、単調な繰り返しであってはならない。

また，音声指導における発音練習は、無理に口の開け方を教えても児童の認識はまちまちで、理解させる前に発話することに抵抗感を抱かせてしまう。英語は難しいと意識させないように指導していくことが望ましい。そのためには、視覚･聴覚と言った感覚器官で理解させ、発話することの楽しさが感じられるような指導をしていきたい。また、学習計画をする際には次の項で述べるTPRやトータルディスポンスの考え方も参考にしていきたい。

（４）トータルフィジカルディスポンス・TPR(Total Physical Response)について

日本語では「全身反応教授法」と呼ばれ、米国の心理学者 James J.Asher が提唱した。耳から入ってきた英語を日本語に置き換えず、身体反応をさせ覚えさせる方法で、英語に対して動作で反応する。無理に発話させず聞くということに専念させ、五感で反応させるので、初めて英語を習う子どもたちにとって効果的である。

実際に「Simon　Says ゲーム」（命令ゲーム）をやってみたが、子どもたちの反応はとてもよかった。慣れてくると、実際に命令する側になれる子もでてきた。

（５）ナチュラルアプローチ・Natural Approach について

Krashen らによって提唱された。幼児期に母国語を習得する際、周囲の話しを聞いているうちに少しずつ話せるようになるのと同じように、正しい英語をたくさん聞かせ、話すことは心理的に無理のないように、話したくなるのを待つという方法。中心となる３つのルールがある。（金森　強著「小学校の英語教育」より）

① 指導者は、学習者にとって理解しやすい主要な目標言語のインプットに努める。
② クラスの雰囲気を楽しいくつろいだ状態にする。間違いをその都度正さず、学習者が関心を持っている事項を提唱して学習意欲を高めるようにする。また、自然に学習者が話したいと感じるまで発話を要求しない。
③ クラスでのバラエティに富んだ活動を選択し、それを活動として構成していくようにする。

４．活動例について

（１）歌やチャンツについて

歌やチャンツを効果的に利用することで自然な英語の音声形式に楽しく触れることができる。その際の留意点としては、意味が分かりやすく簡単なメロディーであること。繰り返しが多いこと。児童の段階に合わせた内容であること。授業のどこで使用するか、目的と効果を考えて、指導したい。

本校では、清掃時間に英語の歌を校内放送で流しているが，学級の児童へ実際に英語の時間に同じ歌を歌わせてみると、これまで意味はあまりよく分からないが、なんとなく繰り返し聴いていた歌が意味を成し、楽しそうに歌っている。

（２）　ゲームについて

「英語活動の中で一番楽しいものは。」と聞けば、「ゲーム。」と即座に答えるほど、子どもたちはゲームが好きである。楽しい雰囲気の中でコミュニケーションを図ることもできる。それだからこそ、目的を明確にし、やらせっぱなしなものとならないように配慮していかなければならない。英語を口に出したくなるようなゲームにし、自分の伝えたいことを表現できるようにさせたい。

【ゲーム例】

バスケット型ゲーム、伝達ゲーム、絵描きゲーム
神経衰弱ゲーム、インタビューゲーム

（3） 絵本について

身近な題材や日常生活に使われる英語表現が、リズミカルで繰り返し出てくるものが親しみやすく、覚えやすい。自然な音やリズムに慣れさせるためにも、ALT や外国人のゲスト、付属のテープなど生の英語を聞かせるようにしたい。

【絵本の例】

エリック　カール著　『brown　bare　brown bare what do you see?』(色・動物)
『The very hungry caterpillar』(曜日・動物)
『Where are you going ? To see my friend.』(動物・音)

（4） スキット(寸劇)

スキットは、自己表現をする上で、とても効果的である。自分たちのアイディアや思いをスキットを通して実現でき子ども中心の授業が展開できる。題材は、「大きなかぶ」「桃太郎」のような誰もが知っている簡単な民話がよく活動に入りやすい。セリフを全て英語でというのは、難しいが ALT の協力を得たり、市販の CD を活用し作業していくとよい。

（5） ごっこ遊び

例えば買い物ごっこという場を設定すると会話が必要になってくる、児童は「『いらっしゃいませ。』は『～ください。』は英語で何て言うだろう。」と興味を持つだろう。
また、ごっこ遊びは児童(特に低中学年)にとって楽しく、スキットと同じく自己表現をする上で効果的な活動である。

5．指導の工夫

ここでは、今回実際に取り組んでみた、活動や手だてについて述べてみる。

（1） 活動目標の設定

本学級の児童にとって英語活動は初めての取り組みである。英語への興味は大きいがどうして英語を習うのか、学習するときのマナーなどについて、オリエンテーションを行った。また、学習のめあてを掲示し確認した。

えいごの時間のめあて	
・ よく聴こう	・ 話してみよう
・ まちがっても OK！	・ ほめ合おう
It's　OK！（大丈夫。）	Good.（いいね。）
Don't　worry.（心配しないで。）	Good job.（がんばったね。）

（2） 評価について

①自己評価・相互評価（ファイルの作成）

事後の自己評価を行い、使用したワークシートも綴りファイルしていくことで、学習内容や自己の振り返りをさせ、次の授業への意欲付けとしていきたい。また英語に慣れ親しむためにもたっぷり活動させたいので評価項目は少なくし、授業の最後に友だちの意見が聞けるような、相互評価の場を設けた。

（自己評価カード）

えいごの学習ふりかえりカード

3年　　組　名前

月　日　ないよう（　　）

できた・まあまあ・できない

1．楽しく活動できた。　　［ ☺ 😐 ☹ ］

2．先生や友だちのえいごを聞こうとがんばった。［ ☺ 😐 ☹ ］

3．先生や友だちとえいごで話そうとがんばった。［ ☺ 😐 ☹ ］

4．かんそう(思ったこと・やってほしいこと・今日のがんばり屋さん)

	（　　）さん

② 教師による評価

① ほめる、声をかける。

より多く児童に声をかけほめることで学習意欲につなげたい。挑戦した子にはみんなで拍手を送り、うまく表現できない子にはそばで励ましできたらほめてあげる。まちがっても大丈夫という温かい雰囲気作りにつとめたい。

（ほめ言葉）

Good.　Good job.　Good work.　Good try.　That's right.

（励ましの言葉）

It's OK.　Nice try.　You can do it.　Don't worry.

② 自分のための評価

研究所にいるからこそできる教師の自己評価。実践授業をするたびに展開に沿って評価をし、反省することで次の授業へのスッテップアップにつなげる。

過程	活動		
	児童	HRT・ALT	教具
Greeting Warm-up だいぶ言えるようになってきた。 （○）	"Good morning" I'm fine. 1人ずつ聞いていく。 It's Friday. It's sunny and hot.	"Good morning" "How are you?" 時間がないので加(毎時間行う) "What day is today?" "What is the weather today?"	図 フラッシュカード
Review 伝言ゲーム(グループ)を加えたので良かった。 （○）	"OK" 1~12までの数を数える。	"Let's counting."	フラッシュカード

（3）コミュニケーションを楽しむために行った活動と感想（実践授業より）

活動名	方法（教具）	コミュニケーションの要素【形態】	感想
インタビューゲーム	お互いにインタビューし.分かったことをシートに書き込む（ワークシート）	Hello. What is your name? など会話文を設定し、質問応答させる。【１人対１人】	できない子への対応が大切、まずは教師と１つできただけでもほめる。
１～１０Wowゲーム	5.6名のグループを作りカウントしながら次の人を指していく.最後に当てられた人の両隣りが両手を挙げ Wow と叫ぶ。	単純なゲームの中であてられるスリル感と小グループで和気あいあいと楽しめる。【グループで】	テンポよく進めるように援助する。失敗したら１回休みなど、変化を付けるとよい。単純なので子供同士教えあう場面が、多く見られた。
伝言ゲーム	列ごとに並び、教師に言われた単語を伝言していき.最後の人がそのカードを取りにいく。（絵カード）	よく聞き.次の人へしっかり伝えないといけない。聞き手に What number?など質問させそれに応答する形にする。【１人対１人】	短い時間でできるので、復習の場面で使える。
バスケットゲーム	フルーツバスケットと同じルール。その時間の言語材料で行う。(曜日、色、形、果物、動物などのカード)	What do you like? What day is today? など全員に質問をし、鬼の子がそれに答えていく。【１人対全員】	質問や応答を言わせるように援助する。質問は、手拍子でリズムを取りながら行うと、言いやすくなる
Simon says ゲーム	命令ゲーム。Simon says touch your~.と言われた時のみ命令に従う。	TPR 法。しっかり聞き、身体反応する。子どもたちは聞くことに集中できる。【教師、１人対全員】	反応がよく、成功者が残る賞罰を加えて行った。どの子も真剣。なれてきたら、子どもに命令をさせるとよい。
モンスターゲーム	さいころを振り、出た目の数のぶんの体のパーツを順序よく描いていきモンスターを描く。頭、髪、目、鼻、口、等。(さいころ、紙、体のパーツのカード)	How many head? Two heads.と質問応答しながら行う。グループで協力し楽しい絵に仕上げるようにさせると、みんなで作り上げた満足感がある。【教師対グループ】【教師対１人】	子どもたちが盛り上がり１つのパーツが仕上がるたびに騒がしかった。最後におさらいで単語を読んでいく場面では、楽しかったゲームのなごりか、大きな声でできた。
カード交換ゲーム	(一人当たり４枚程度、カードが当たるように準備する。)会話をしながら好きなカードを 4 枚集めていく。速く集めるほどよい	例：Hello. How are you? What animal do you like? 等、会話を設定し互いにカードをあげたり貰ったりする。【１人対１人】	カード交換時に、thank you. Your welcome など自然に会話が弾んだ。1 対 1 のやり取りなので、個への支援がしやすい。

カード取りゲーム	カルタ取りと同じ,(グループ分のトッピックに応じたカード)を用意する。	会話をさせながら行う。 例:**What color do you like?** **I like~ .** 【グループ対一人】	会話をしっかりさせながらゲームをさせる。おにを交互に行わせる。グループ単位なので苦手な子でも声が出しやすい。
動物園を作ろう ごっこ遊び 【検証授業】	売り手と買い手に分かれて、買ったペット(動物のカット)を（ワークシート）にはる。	買い物をするとき。売り手と買い手で会話をする。 例：**May I help you.** **Yes Please.** 【一人対一人】	買い物の疑似体験が味わえる。活動前に会話をしっかり練習しておく。時間内に両方を体験できるようにさせると、満足度が高い

（4）家庭への英語活動通信の発行(エンジョイ　イングリシュ)

お家の方へ

平成 16 年 11 月 26 日

3 年えいご担当　バレット文野

エンジョイ イングリッシュ　2 号

こんにちは、今回は宜野湾市の英語特区について少しお話します。再来年をめどに市内全ての小学校に英語科が設置されることはもうご存知ですよね。11/8 に、すでに英語特区に指定された、志真志小学校の英語研究発表会をみてきました。間違っても大丈夫という雰囲気の中でどの子も物怖じせず、生き生きと学習している姿が印象的でしたよ。小学生にとって英語って、体育や音楽・図工のように人気のある教科になれると思いました。

また、英語特区の目的は、「生きる力の育成」と「外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むこと」だそうです。簡単に言えば、前者は「知徳体のバランスの取れた、自分を理解し、他人を理解することができる人を育成しよう」。後者は「自国、外国の文化や習慣を理解し、外国人と英会話でコミュニケーションが取れるような人をめざし、英会話の基礎を育成しよう」ということです。(生きる力は、全ての教育活動の目的でもあります。この目的を、見るたび気持ちが引き締まる思いです。)

さて、今日のえいごの学習をご紹介します。　もしよろしければ、学習の内容について聞いてみたり、お子さんと一緒にやってみたりしてください。子供たちにとって、いい復習になると思います。

テーマ　　「体のえいごを言ってみよう」

単語と会話文　**head　eye　ear　nose　mouth　shoulder　leg toe　hand**

ゲーム　　Simon says ゲーム(命令ゲーム)

　　モンスターゲーム(グループ対抗でモンスターを描く)

歌　　「Head and shoulders knees and toe」（頭と肩、ひざとつま先）

英語活動は、親にとっても初めての学習である。また、教科書もなくどのような内容を教えているか見えてこない、親としては疑問もあるだろう。そこで、英語活動の様子や、毎回英語教育に関する情報をそえて発行し、保護者の理解と協力を得たい。

（内容）

- 英語通信について
- 宜野湾市の英語特区について
- 英語活動の学習の内容について　等

Ⅵ　検証授業

１．題材　　「動物大すき」

２．題材設定の理由

これまで、年間計画に沿ってあいさつ、曜日、数字（０～１２）、動作について学習してきた。ほとんど毎時間の内容が変わるトピックごとの学習で回を重ねるうちに、子どもたちは前回習ったことを振り返りながら関連性を持たせた学習を展開する、ステップバイステップの方が学習効果が高いのではないかと考えた。そこで、１単元を４時間で構成し、これまで習った言語材料を生かしながら、新しい言語材料に効果的に親しめるように工夫していくことにした。

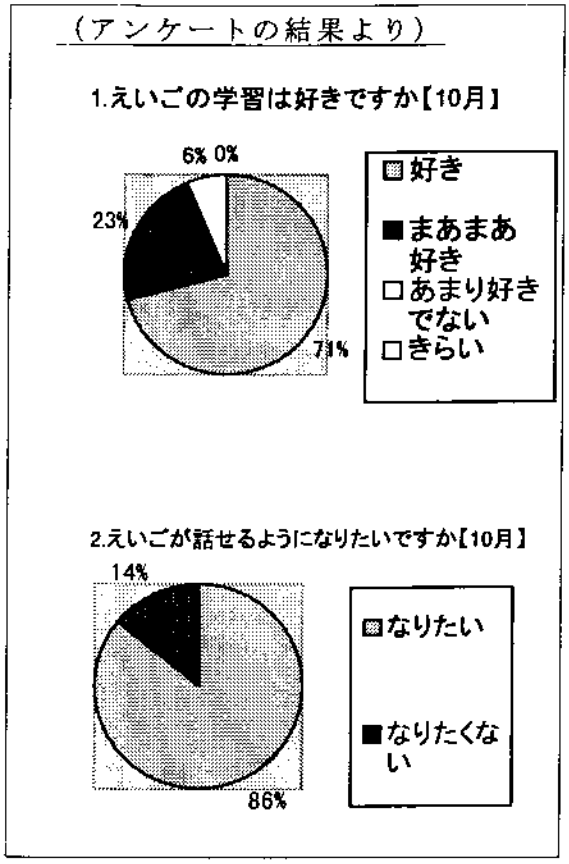
３．題材について

題材は動物と色である。子どもたちにとって身近な題材であると共に、その中にはキャットやドッグ、レッドと言った生活の中で聞いたことがあり、すでに知っている言語材料もあり、親しみやすい題材である。またこれに、コミュニケーションで必要とされる会話文を組み合わせて、コミュニケーションを図るための活動の場を設定した。

４．児童の実態

この３学年にとって英語活動は今回初めての体験である。２学期から２週間に１時間の割合で英語活動を行いネイティブスピーカーの協力者を探しているが、現在は私が各学級担任との TT での授業である。また、毎週木曜日には『エイゴリアン』VTR を視聴している。また、清掃時間には英語の歌が流れよく耳にしている。

（アンケートの結果より）



アンケート１の結果より、「英語の学習はすきですか。」という質問に対し２２名(71%)が「好き」、７名(23%)が「まあまあ好き」、２名（7%）が「あまり好きではない」と答えている。また、アンケート２の結果より、「英語で外国人と話してみたいですか」という質問に対し２８名(86%)が「話してみたい」、３名(14%)が「話したくない」と答えている。

アンケート２の結果より、ほとんどの子は英語活動が好きでその児童は、外国人とも話してみたいと意欲的である。話してみたい理由も「友達になりたいから」「面白そう」「挑戦してみたい」と外国人との交流に興味があることがわかる。反対に英語活動において「あまり好きでない」と答えている子は外国人とも話したくないと答えている。その理由は、「間違えるかも」「意味通じない？」「すきじゃない」という答えで英語に対する苦手意識が見える。このような子への対応を考え、無理に英語を話すのではなく、活動しているうちに話せるようになってきたという学習活動を工夫していきたい。また、「まちがっても大丈夫」というクラスの雰囲気作りに努めたい。

5．単元の目標

学習した英語を使って、児童と児童同士で楽しくコミュニケーションを図れるようにする。

6．　単元計画

時	ねらい	指導内容	活動	評価規準･方法
1	動物と色の言い方に触れながらクイズや聖徳太子ゲームを楽しむ。	･動物と色の名前 ･～、～ what do You see? ･I see a,I see a～.	･歌[Head Shoulders knees and Toes] ･絵本の読み聞かせ ･チャンツ ･クイズ[What do you see?] ･聖徳太子ゲーム	いろいろな動物と色の名前を英語で言いながら、ゲームを楽しむことができる。 (行動観察･自己評価)
2	動物と色の言い方や"What animal do you like?" "I like ~."の言葉に触れながらカード取りゲームを楽しむ。	･動物と色の名前 ･"What animal do you like?" ･"I like ~."	･歌[Head Shoulders knees and Toes] ･絵本の読み聞かせ ･チャンツ ･カード取りゲーム	･いろいろな動物の名前を英語で言いながら、みんなと楽しくゲームをすることができる。 (行動観察･自己評価)
3	動物と色の名前やWhat animal do you like?" "I like ~." 使って、ゲームを楽しむ。	･動物と色の名前 ･What animal do you like? ･I like ~. ･Thank you. ･You're Welcome.	･歌[Hello Song] ･チャンツ ･伝言ゲーム ･カード交換ゲーム ･「動物園を作ろう」についての説明	･「What animal do you like？」「I like ~」をいいながら、ゲームを楽しむことができる。 (行動観察･自己評価)
準備	(いつ)朝の会や帰りの会等を使って (どのように)どの動物を売るか８種類の中から１つ選ぶ、どの種類も公平に用意しておく 教師が用意しておいた動物のイラストに色を塗りカットしておく。 また，どのような会話が必要か話し合う。例【いらっしゃいませは何?】			
4（本時）	「動物園を作ろう」 (買い物ごっこ)を楽しむ。	･動物と色の名前 ･May I help you. ･Yes please. ･What animal do you like? ･I like~. ･Thank you. ･You're Welcome.	･歌[Hello Song] ･チャンツ ･「動物園を作ろう」 (買い物ごっこ)	･みんなと楽しく「動物園を作ろう」をすることができる。 (行動観察･自己評価)

7．本時の展開

(1)本時のねらい

・「動物園を作ろう」（買い物ごっこ）の活動を通して、友だちと楽しくコミュニケーションをとることができる。

(2)授業仮説

・これまで学習してきた英語表現をいかした体験的な活動を取り入れることによって、児童が楽しみながらコミュニケーションに取り組むことができるであろう。

(3)本時の展開

活動と内容	教師の支援		準備 留意点
	HRT	ALT	
【Warm-up】４分 ・あいさつをする。 ・"What animal do you like?" "I like ~."	・児童と一緒に答える。 ・共に歌う。	"Hello! How are you?" "What day is today?" "Let's sing Hello song."	CD
【Review】５分 ・伝言ゲームをしながら前回学んだことを練習する。 (列ごとに行う)	・ゲームのやり方が分かったか確認する。	・Explain dengon-game（Game1 ）	Cards
【Activity】３０分 ・ゲームや会話の仕方を確認する。 ・会話の練習をする。 （全体→小集団→個人） ・あいさつ ・いらっしゃいませ ・なにがすき？ ・ありがとう。 ・「動物園を作ろう」をする。 (前半と後半に分かれて活動し、好きな動物４匹をそれぞれのお店屋さんからもらう)	・やり方の確認をする。 (なるべく英語を使うようにさせる) ALT "Hello" HRT "Hello" A: "May I help you." H: "Yes please." A: "What animal do you like." H: "I like ~." A: "thank you." H: "Thank you."	・Explain making zoo game.（Game2） ・Teacher's demonstrate. ・Game is start.	動物の絵 (児童が用意) ワークシート のり （場の設定） お店屋さん お店屋さん
【Warm-up】６分 ・感想を発表する。 ・おわりのあいさつ。	・授業についての感想を述べる。	・Teacher's comment.	

8．授業の感想

（1）授業者の反省

・2学期より定期的に英語活動を行ってきたので、子ども達がいつもの調子で楽しく活動できていた。

・ALTを交えての授業は子ども達にとって初めての体験であったが、校内で時々見かけたこともあったので、臆することもなく積極的に活動に臨めていた。

・「間違ってもOK」という、雰囲気を作ってきたので子ども達が以前より、恥ずかしがらず積極的に英語を話すようになっている。

・今回ALTとのティームティーチングで授業を進めたが、活動計画や展開、個への支援等、自分の考えを伝え理解してもらうことの大変さについて身をもって感じた。普段から教師自ら、進んでコミュニケーションをとることが大切である。

（2）全体会より

・金銭を用いた授業の展開も含めると良かったのではないか。

・授業を行う前に、ゲームの説明は事前に担任がやっておけば、ゲームの時間が増えるので、より子ども達が満足した活動ができるだろう。

・ ゲームは、時間を制限してやれば、競争心が出て恥ずかしさを忘れさせてくれる。

ワークシートより

9．授業仮説の検証

仮説： これまで学習してきた英語での会話をいかした体験的な活動を取り入れることによって、児童が楽しみながらコミュニケーションに取り組むことができるであろう。

（1）授業仮説の英語表現をいかした体験的な活動について

本時では動物と色を題材に、3年生が楽しく活動できそうなごっこ遊びを展開した。単に単語を覚えて行くだけでは、コミュニケーションを高めて行くことはできないと考え、1単元を4時間で構成し、前時までに学習してきた「Hello」「what animal do you like?」「I like～.」「Thank you」「Your welcome.」の表現に新しく「May I help you.」「Yes Please.」の表現を取り入れ、動物を買いに行くという設定で活動を展開した。本来であれば、金銭についても取り上げ、より体験的な活動にさせる方法もあるだろうが表現内容と児童の英語力から見て、金銭については次の活動へと結

びつけていきたいと考えた。又、これから買物ごっこをする機会があれば自然に児童自ら「お金も使ってみたい。」と言う声も必然的に挙がりより児童主体の活動となるであろう。

（２）児童が楽しみながらコミュニケーションに取り組むことができたかについて

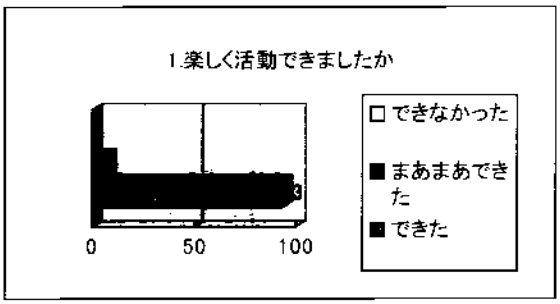


図１楽しく活動できましたか

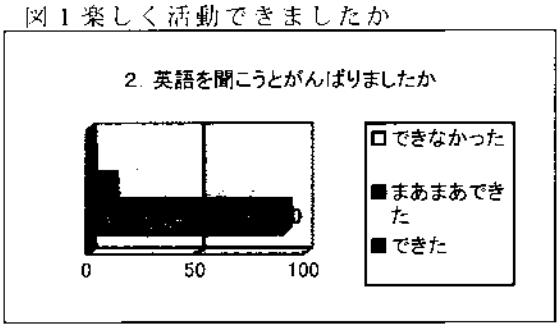


図２英語を聞こうとがんばりましたか

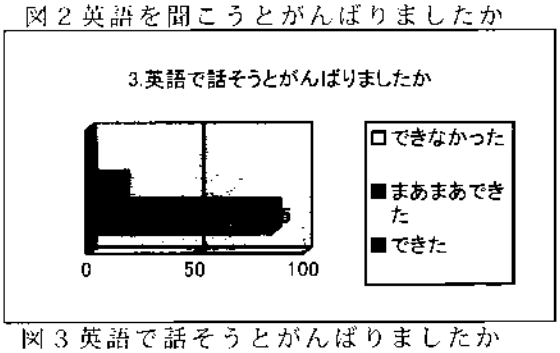


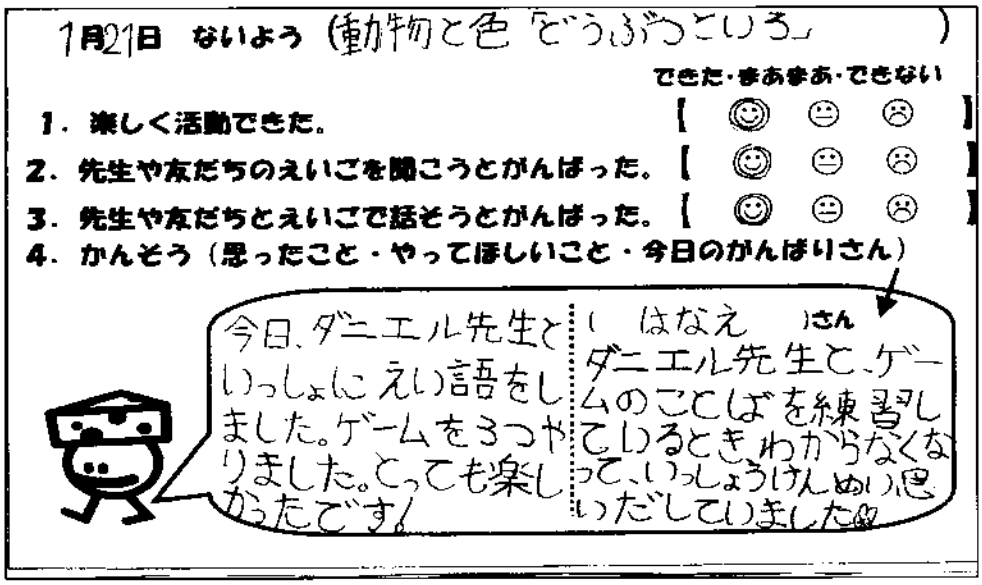
図３英語で話そうとがんばりましたか

授業後のアンケートの結果より、図１の「１．楽しく活動できましたか。」の質問に対し、できたと答えた子が93%、まあまあできた子が３％と、多くの子がコミュニケーションを意識した活動（ごっこ遊び）に対し、意欲的に活動でき、満足度の高さが伺える。

次に、図２の「２．英語を聞こうとがんばりましたか。」の質問に対し、できたと答えた子が９０％。図３の「３．英語で話そうとがんばりましたか。」の質問に対し、できた子が８５％と、多くの子がコミュニケーションに必要とされる、英語を聞いたり話したりすることに対して、意識して取り組んでいることがわかった。

また児童の感想(表１)より、今回ALTが加わったことへの関心が高く。多くの子から、「ダニエル先生と英語ができて楽しかった。」という声が聞け、ALTの存在の重要性を認識できた。

表１　児童の学習ふりかえりカード



Ⅶ　交流会より

1．　アメリカンスクールとの交流

2月に、カデナエレメンタリースクールの6年生と交流を行った。3時間と短い時間ではあったが、初めは緊張していた子どもたちも帰るころにはお互い名残り惜しく、思い出深い時間を過ごせた。

【交流の流れ】

・パートナーとの自己紹介（3人一組）
・音楽の授業の参観
・校庭の遊具で遊ぶ
・教室に帰り、各コーナーで遊ぶ（パートナーと）
　　コーナーの種類：折り紙、おにぎり、ゲーム、
　　イラスト、絵の具、等

【児童の感想】

交流会

金曜日に、カデナエレメンタリースクールに行きました。
相手は、6年生でした。
わたしは、とってもきんちょうしていました。
でもなれてくると、少しだけしゃべれるようになりました。
ゆうぐで、ブランコに乗ると、とてもまもちろかったです。
とっても楽しかったです。また行きたいです。

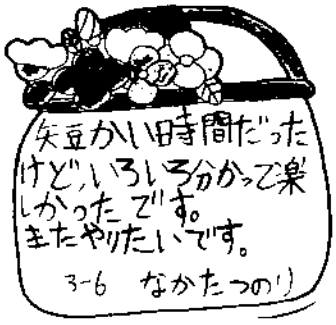
2、国際交流センター（JICA）との交流

（英語で自己紹介）

2月に、JICAの研修員を招いて交流会を行った。11カ国から来てくれた交流員と各クラスで交流。キリスト短期大学の通訳ボランティアをお願いしたので、進行がスムーズに行えた。

いろいろな国の人が英語を話し、それがコミュニケーションの方法になっていることを自己紹介やゲームなどの活動を通して、子どもたちが体験することができた。

【児童の感想】



（タイ語でジャンケン）

Ⅷ　研究の結果と考察

1．研究仮説の検証

（1）英語活動においては身近な題材を取り上げ、歌やゲーム、リズム・チャンツ、絵本の読み聞かせ、ごっこ遊び、季節や行事に合わせての簡単な工作や外国の様子についての紹介など活動を工夫すれば、児童の意欲が高まり楽しい活動ができるであろう。

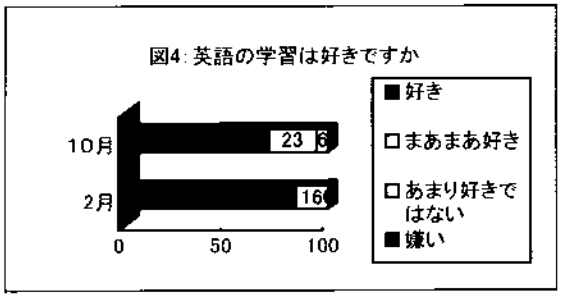
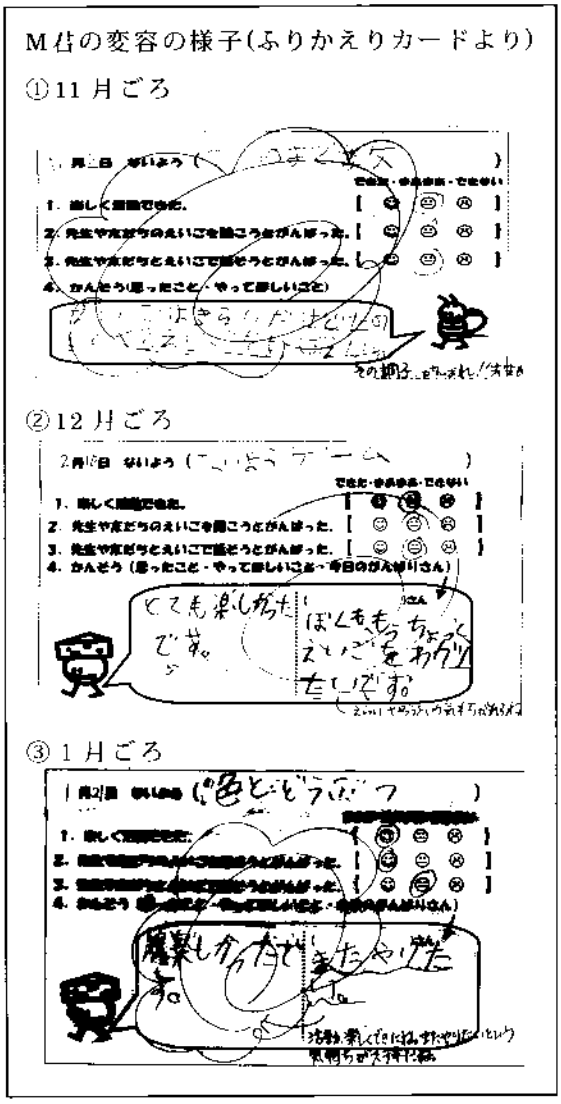


図４英語の学習は好きですか

表２Ｍ君の変容



10月よりこれまで、いろいろな活動を工夫し行ってきた。児童の意欲が高まったかどうかについて、図４のアンケート「英語の学習は好きですか。」より考察してみると 10 月のころと比べると、より多くの子が好きと答え、又あまり好きでないと答える子がいなくなり、より意欲が高まってきた。

また、10月のアンケートで「英語はあまりすきではない。」と答えていたＭ君のふりかえりカードでどのように変容しているか考察してみる表２①の 11 月ごろの感想では、「英語はきらいだけど、楽しく覚えてみたい。」と、少し興味がでてきたことがわかる。Ｍくんは活動場面において、歌や全体でのゲームではいきいきと活動するが個々が英語表現をしなければならない活動において苦手意識があり、教師がなるべくそばについて支援したり、グループ作りの工夫をしたりした。

その後、表２②の 12 月ごろの感想には、「とても楽しかった。」という感想がもてた。しかし、評価項目は、どれも「まあまあ」にしか○印をつけていて、まだ活動に対し自信がなく達成感を持つことが出来ないようである。その頃の手だてとしては、もう一度めあての確認をしたり、２月に行われたアメリカンスクールとの交流会に向けてがんばろうと励ましたりした。

そして、表２②の１月ごろには、本人も活動にだいぶなれ、自信もついてきたようで、評価項目３つのうち２つに「できた」と○印をうち、感想においても「楽しかった。またやりたい。」と、意欲が感じられる。結果、図４の２月のアンケートでも、「英語の学習が好き。」と答え、英語嫌いが克服できたようである。

（2）担任と ALT が連携して積極的に関わり、児童の活動の様子に配慮しながら、担任と児童、ALT と児童、児童と児童どうしのコミュニケーション活動を工夫すれば、コミュニケーション能力を高めることができるであろう。

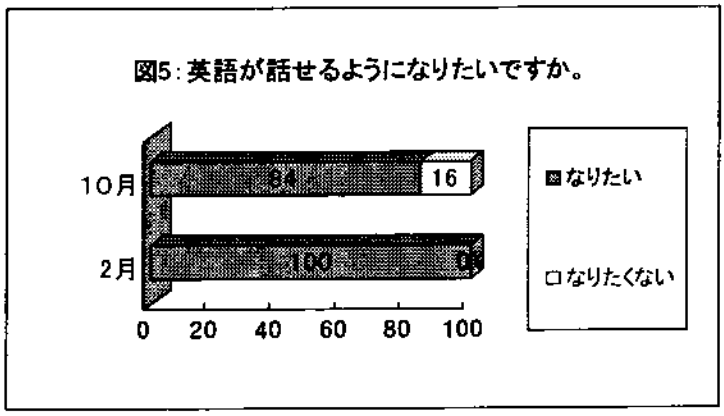


図５英語が話せるようになりたいですか

これまでの活動を通して、児童のコミュニケーション能力を高めることができたかについて、図５の「英語が話せるようになりたいですか。」というアンケート結果から考察してみる。10 月のころは、「英語が話せなくてもよい。」「難しい。」などの理由から、16%の児童が話せるようになりたくないと答えていたが、2 月の結果では、全ての児童が話せるようになりたいと答えた。

理由においては、「いろいろな国の人と友だちになりたい。」「英語の学習が楽しい。」「外国人と話せて楽しかった。」等があり、コミュニケーションを意識した表現活動を取り入れ、担任や ALT が積極的に関わった授業内容を工夫したり、交流活動で実際に学んだ英語を実際に使って外国人と交流できたことが、よい結果に結び付いたのだろう。

Ⅸ　研究の成果と今後の課題

1　研究の成果

（1）英語活動におけるコミュニケーション能力について多くの理論に触れ、研究し自分なりに、小学校で身に付けさせたいコミュニケーション能力について定義づけることができた。

（2）検証授業だけでなく、多くの授業実践を積むことで歌やゲーム等の活動の工夫改善ができ、また身につけることができた。

（3）アメリカンスクールや JICA との交流ができたことで、より児童が英語活動に関心や意欲を持つことができた。いろいろな国の人と交流するには英語を学ぶことも大切であることを、体験を通して感じさせることができた。

（4）３５時間分の活動計画を作成することができた。

2　研究の課題

（1）英語活動を効果的に実践していくための、技術を高めていきたい。

（2）学年間の系統性を持たせた、年間計画を作成していきたい。

（3）自分が学び、身につけた理論や実践が他の教師に役立てるように還元していきたい。

3　終わりに

6ヶ月の研修もあっという間に過ぎてしまいました。初めのころは、研究なんて自分にできるのだろうかと不安でしたが、周囲の励ましを受け「できないなりに、できる分がんばってみよう。」と思えるようになりました。そして研究がスタート、ゆとりと静かで、充実した環境、その中で自分の研究に打ち込め、有意義な時間を過ごすことができました。ここで培った研究の成果及び課題は私にとって大きな財産です。是非これからの教育活動に生かしていきたいと思います。

最後に研究を進めるにあたって、ご指導、ご助言を賜った宜野湾市教育事務所指導主事の上江洲隆先生、当研究所所長の宮城茂雄先生、指導主事の上原等先生、研修の機会を進めてくださいました大山小学校校長の長濱ミツエ先生をはじめ、大山小学校の職員の皆様、そして励まし支えてくれた当学習センターの職員の皆様、共に研究に励み支えてくれた研究教員の金城勇一先生、金城益美先生、前幸三先生に深く感謝申し上げます。

〈主な引用文献・参考文献〉

金森　強編集　『小学校の英語教育・指導者に求められる理論と実践』　教育出版,2003
デイビット　ポール著　『子ども中心ではじめる英語レッスン』
ピアソン・エデュケーション,2004
和田　稔監修　『小学校英語教育 AtoZ・国際理解学習早わかりガイド』　開隆堂,1999
八和田　清秀著『どんどん面白くなるコミュニケーションゲーム　ユニット 50』
明治図書,2003
奈良橋　陽子監修　『楽しい英語の授業マニュアル』　The Japan Times,2004
文部科学省　『小学校　英語活動実践の手引き』　開隆堂,2001
広島教育センター　『小学校における国際理解教育の進め方に関する研究』